

TSUNAGU

令和2年8月24日  
我孫子市小中一貫教育だより  
第228号

小から中への滑らかな接続に向けて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター  
「手賀沼のうきやまさん」

### 我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター  
「ふさだ だしほ」

## 白山中学校区にて小中一貫教育研修会が行われたうなー！

我孫子市小中一貫教育においては、令和2年2月に「我孫子市小中一貫教育基本方針」を改訂し、「環境」「学習」「人」でつなぐことにより、目指す子ども像に向けて、児童生徒の育成を目指します。

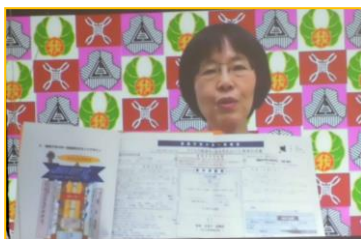
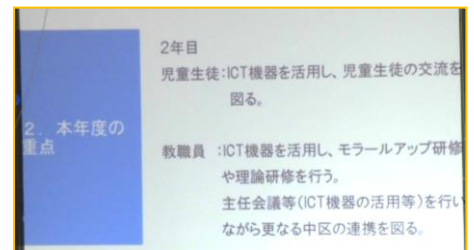
しかしながら、その後の新型コロナウイルス感染症等の影響により、これまでどおりの取組によって「つなぐ」ことが難しくなった部分も多々あります。そんな中で、今年度、白山中学校区では、ICTを活用した児童生徒の交流や、教職員の交流に取り組んでいます。

### 我孫子第四小学校で、小中一貫教育研修会が行われました

白山中学校区では、動画の共有や各校の主幹教諭・教務主任による代表者のリモート会議等によって学校ごとに小中一貫教育研修会を実施します。

我孫子第四小学校では、8月19日に小中一貫教育研修会を実施しました。

はじめに、白山中学校区の今年度の小中一貫教育の重点と、研修計画について、動画で確認をしました。白山中学校区の目指す児童・生徒像「共に支え合い、たくましく生きようとする15歳」に向けて、「つなぐ かかわる 支え合う」という合い言葉のもと、本年度はICT機器を活用し児童生徒の交流や教職員の研修・連携を重点として進めていきます。



続いて、我孫子第一小学校山口祐子校長による講話を動画にて視聴しました。市の方針に則り、このコロナ禍だからこそICT機器の活用など工夫して取り組む大切さや、白山中学校区らしさを生かしながら、課題となっている子ども達の人間関係を育む力や、困ったときに解決できるような力、耐性、レジリエンスを育むことが必要であることが伝えられました。また、そのために求められる教職員の同僚性やマネジメント力の向上、そして子ども達、先生方、保護

者や地域の方々をつないでいく必要性が語られました。

動画視聴後は、「教育課程」「研修」「生徒指導」「特別支援教育」の4つの部会に分かれ、「コロナ禍の中でもできる『中1ギャップ』をなくすための工夫」「『共に支え合いたくましく生きようとする15歳』という生徒像に近づくために小中同一歩調で進められることは何か」をテーマにして話し合いが行われました。



話し合いの中では、小学校の子どもたちの実態と、中学校段階で求められる力を視点として、身に付けるべき力

と、その手立てなど、課題解決に向けての内容や、「同一歩調」とすべきことについて、スモールステップで具体的にした目標の共有や、児童生徒理解の共有、それぞれの学校における手立てについての情報の共有などについて議論がなされました。また、小学校側から発信する大切さや、中学校区のオリジナルのカリキュラムについてなどもアイデアが出されていました。